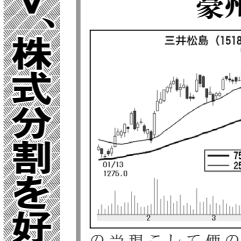
三井松島、急浮上の芽

豪州サイクロンの余波着目

価格交渉の追い風に作用か

3月高値から13%安を経た**三井松島産業（1518）**に狙い目が出てきた。

ポイントは、先に豪州に上陸した熱帯サイクロン「デビー」の余波、鉄道網に大きな影響が生じ、海上貿易量の約50%を占める、豪州クイーンズランドの原料炭供給がストップしたことだ。鉄道網の復旧は3～5週を要するとされ、中国向けスポット強粘結炭用は広報社IR（投資家向け広報部門）公式見解。現在、四半期ごとの原料炭、鉄鉱石価格交渉が勧められている。今月中にも決着する見通しだが、販売のほか、豪州ニューサウスウェールズ州ブレイ炭鉱での生産も手掛ける同社にとって、交渉結果は「来3月期業績に大きな影響がある」（総務部）とされる。一方、原料炭価格の4月交渉は長期契約の交渉にも売り手有利に作用しよう。原料炭供給不足問題を取り上げた7日付のSMBC日興証券レポートでも、一弊原料炭当社業績への影響について、「5月12日の本決算発表時に開示する方針」というのが同証券。が今期の営業利益3倍増（純利益倍増）見通しを打ち出して話題を集めた経緯があるが、実際に、今期入帽増益見通しが打ち出されれば、気に入られる素地はあるとみられる。



三井松島のPERは、集計中の期間予算見込みベースでも13倍をこえるが、割高感はなくPBR（株価純資産倍率）なら0・6倍台。

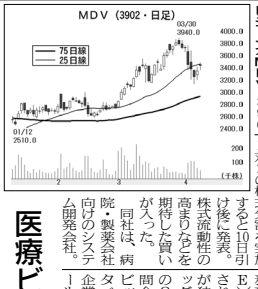
2月には、岩井コスモ証券が、今期の営業利益3倍増（純利益倍増）見通しを打ち出して話題を集めた経緯があるが、実際に、今期入帽増益見通しが打ち出されれば、株価低迷を強いられた4月7日の安値2,000円で目先の底入れを確認、10日に発表した医療分野のM&Aの進出という材料が好感された。

「自動運転関連」でも注目を集めたようで、同社の優れた画像処理技術や、高解像度画像処理技術を有するインスペック（6656・東マ）などならびに画像認識技術の共同研究開発を進めている。

ディーフラーニングなどのAI（人工知能）を用いた「医療画像処理」は、**みずホールディングス（4544）**の出資子会社である、受託臨床検査首位のSRL社と医業務提携先である、臨床検査ディングス（4901）

・診療所から毎日20万件近い検査を受託するSRL社、製品化後の販売網が既に確立されている点は優位性が高い。

MDV、株式分割を好感



メディカル・データ・ビジョン（MDV、3902）が続伸。4月末期当で1対2の株式分割を実施すると10日引け後に発表。株式流動性の高まりなどを期待した買いが入った。

同社は、病院・製薬会社向けのシステム開発会社。病院向けの経営支援・業務効率化システム（EMR）が多くの病院に採用され、この結果、同社は、規模神奥データを活用し、本質的な生活者コンサルティングの規模は国民健康・美容製品の製造販売分野に進出した。

4月19日から都内で開催される「ヘルスケアIT 2017」に出展する。

医療ビッグデータに関心

zeeZ社販売している。最近では、患者向けサーバーアルテコ「CADA」も展開している。また、2月には子会社のMDVコンシューマーヘルスケアを設立。大量の生活者コミュニティデータの規模は国民の8人に1人に相当する。民間企業では最大級の医療データベースを基に、医薬品企業向けのWEB分析ツール「MDVanalyt」を展開している。

EIZOが大幅高

いちよし経研が「5000円目標」

EIZO（6737）が大幅続伸。いちよし経済研究所が目付けレーティングを新規に最上位の「A」に、目標株価を5,000円（11日は3400円台）としたことを好感した。

パソコンやパチンコ機器などアミューズメント用モニターが主力だが、V&S（Veritica & Specitica）に注力し、ヘルスケア用途、クリエイティブワーク用途、インダストリー用途などに展開している。品質力や技術力により中期的な収益成長は十分可能、とかうした経済研究所はみている。

足元の業績も好調。2017年3月期については営業利益を従来予想の57億円から69億円（前期比36%増）に修正した。ヘルスケア市場向け、航空管制用途やアミューズメント用モニターの需要拡大に伴う売り上げが計画を上回った。

モルフォ に出直り機運

医療画像処理でSRL社と提携

モルフォ（3653・東マ）の出直り機運が高まってきた。役職員がインサイダー取引の発覚で、4月7日の安値2,000円で目先の底入れを確認、10日に発表した医療分野への進出という材料が好感された。

注目を集めたようで、同社の優れた画像処理技術は周知の通り。今回は、**みずホールディングス（4544）**の出資子会社である、受託臨床検査首位のSRL社との業務提携先である、臨床検査ディングス（4901）

ホシザキ急伸の背景は

調整係数解除で月末買い流入

週明け10日に底もみを上放れたのが**ホシザキ（6465）**。一時、7%高買われ、1月31日以来の戻り高値をつけた。10は同様に、**ウエルシアHD（3141）**も1月18日以来の戻り高値に買われた。

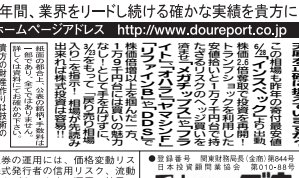
この2銘柄に共通するのは、TOPIX調整係数・解除発表銘柄であることだ。

TOPIXは、東証1部全銘柄に構成され、時価総額比率方式で算出される株価指数。時価総額が大きい銘柄ほど指数構成ウエイトも高くなる。

ただし、市場流動性の低い銘柄や上場間もない銘柄に関しては、時価総額の75%分のみ指数に反映されることになっている（25%分はディスカウント）。これが調整係数。

本来の100%が反映されることになり、その分、年金、投信などTOPIX連動運用資金による追加買い付けが期待されるとみられた。

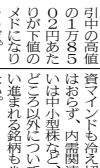
調整係数解除銘柄の発表は年に1度、今年は、前週末7日引け後に発表され、27日引けでの実施となる。88銘柄の多数だが、中でも、時価総額2000億円以上の銘柄で、ジェイアイングループ、ホシザキは120億5400万円の買い物流入が最大きいとされるのが注目。



ウエルシア、スターツも注目

大引け前ホットライン

日経平均「下方リスク」台頭



岡三オンライン証券
チーフストラテジスト
伊藤嘉洋氏

日経平均は10日までの8日連続、日足ベースで陰線となった。11日も前引け時点では陰線で、市場の弱気心理が鮮明だ。地政学リスクの高まりと、ドル円が110円台へ円高方向でフレたことが背景。これら要因については当面、不透明な状況が続くとみられる。

テクニカル的にも下方リスクの高まりが懸念される。日経平均は5日移動平均線がパソコンの動き日移動平均線を下回る状態。現、辛うじて5日線上を維持している状態だが、これを割り込んだ場合、ダーク・ウッドクロスを示唆し、昨年12月7日の取引時の高値（4位（4・4月）、年金、投信などPTX連動運用資金による追加買い付けが期待されるとみられた。

ホシザキで、2位がウエルシアHD、SMBC日興証券試算による、ホシザキは120億5400万円の買い物流入が最大きいとされるのが注目。

ウエルシアHD、SMBC日興証券試算による、ホシザキは120億5400万円の買い物流入が最大きいとされるのが注目。

新日本無線

上方修正で飛ぶ

防衛関連でも物色

新日本無線（6911）が急伸。昨年4月以来となる500円台乗せ。10日引け後に発表した前3月期業績予想の上方修正を好感した。

前期の営業利益を従来予想の13億円から17億5000万円（前期比44%減）に修正した。これを受け、ディスプレイ事業における車載ダーなどを取り扱うほか、防衛関連の側面が持つ。実態面の見直しセンチメントが強まったもう一段の上値余地が期待できそうだ。

・産業機器向けが好調だったほか、通信デバイス製品の利益率改善などが目立ち、10日の利益率改善などが目立ち、10日の利益率改善などが目立ち、10日